付録 1.　GQM 手法について

GQM では、次の３段階でメトリクスを決めていくことになる。

1) 目標を定義

　目標とは、人がそこで何を知り、理解し、改善し、実行したいのかを定義するものである。意図、論点、対象、観点を明確に定めておく。

2) 質問を定義

　1) で定義した目標に対して、誰が、何を、なぜ、どこで、どのように、といった質問を定義する。

3) メトリクスを定義

　2) で定義した質問に対するメトリクスを定義する。メトリクスは、質問に答えられるものであることが必要である。１つの質問に対して複数のメトリクスが必要になる場合もあるし、逆に、同一のメトリクスで複数の質問に答えることができる場合もある。

GQM は、メトリクスを決める際に非常に役立つ考え方である。まず最初に目標を明確にしておくことがポイントである。

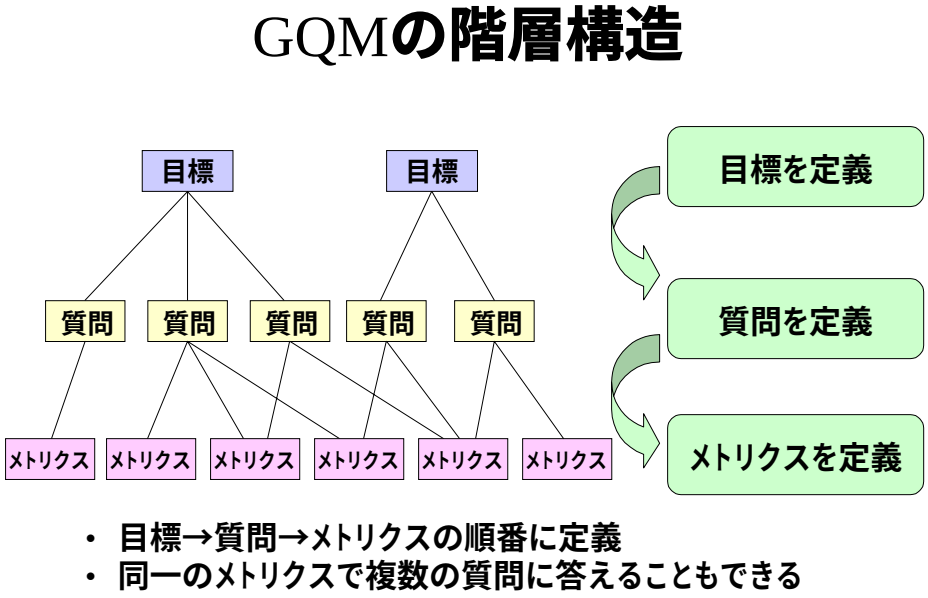

図 1. GQM の階層構造

GQM における目標、質問、メトリクスの関係を図で示すと、上のようになる。

　このように、目標をもとにして、質問、メトリクスの順にブレークダウンする形でそれぞれを定義していく。前にも述べたが、１つの質問に対して複数のメトリクスが必要になる場合もあるし、逆に、同一のメトリクスで複数の質問に答えることができる場合もある。

プロジェクト観点のメトリクスを考えた場合、
変更管理のメトリクスの例
Goal：顧客と合意しながら変更による影響を適量にコントロールしたい
Question：どれくらい変更をコントロールできているのか？
Metrics：変更の影響量＝変更が必要になる他の要件項目数、変更プログラムモジュール数、
　　変更プログラム規模など

となり、変更の影響度と再作業量(rework)の指標として利用したり、仕様変更の影響量の調査、顧客との折衝に利用できる。

このように GQM 手法を用いて、そもそも何を目標にして測りたいのかということから、それぞれのメトリクスの位置付けを整理して考えてみると良い。